



○「7月7日」

盧溝橋⇒

旧暦では、7月15日の夜には祖先の霊が戻ってくるとされ、その際に着せる衣服を機織(はたおり)して棚に置いておく習慣があったそうです。棚に機で織った衣服を備えることから「棚機(たなばた)」という言葉が生まれたとも言われています。



その後7月15日が仏教上の行事「盂蘭盆(うらぼん)」となり、棚機(たなばた)は盆の準備をする日とされ、1週前の7月7日に棚機は繰り上げられました。これに中国の伝説が結びつけられ、天の川を隔てた織姫(おりひめ)と彦星(ひこぼし)が年に一度の再会を許される日とされるようになり、7月7日が七夕と言われるようになったそうです。

天の川から川が連想されることから、7月7日が「川の日」となったり、二十四節気の「小暑」つまり夏らしい暑さがはじまる頃でもあることから、「冷やし中華の日」にもなったりしています。

明るいイメージの多い7月7日ですが、この日が盧溝橋事件の日であることを認識している日本人はそこまで多くないと思います。

盧溝橋事件とは、日中戦争の発端となった事件で、1937年(昭和12年)の7月7日、北京郊外の盧溝橋で起きた日本軍と中国軍との衝突事件です。夜、日本軍が盧溝橋近辺の河原で演習していたところに銃撃があり、兵士が1名行方不明となりました。その後発見されましたが、散発的に銃撃があったことから、翌朝日本軍が中国軍を攻撃したことが、日中戦争のはじまりとなりました。銃撃が中国軍によるものかどうかは不明です。

1945年8月6日広島市に、同月9日長崎市にアメリカ軍が原子爆弾を投下しました。犠牲になった人々を慰霊するため毎年8月には平和記念(祈念)式典があります。また、8月15日は太平洋戦争の終戦の日であり、毎年全国戦没者追悼式も行われています。

一方、中国では、国恥(記念)日というものがあります。数年前に、国恥日はいずれも日本に関係しているとする記事を中国のメディアが取り上げたことがあります。

1つめは5月9日。1915年(大正4年)に日本が中華民国の袁世凱に対し屈辱的な21か条要求を突きつけ、その要求を受け入れさせた日です。2つめは9月18日。1931年(昭和6年)に柳条湖事件がおきた日です。これに端を発し満州事変がはじまりました。当時日本の首相は、島根県出身の若槻礼次郎でした。3つめが、7月7日の盧溝橋事件の日で、4つめが12月13日です。日中戦争により1937年首都南京が陥落した日です。翌日から日本軍による中国人の虐殺、いわゆる南京大虐殺がおきたとされています。

盧溝橋は、この地を訪れたマルコポーロが、著書『東方見聞録』で「世界中のどこを探しても、匹敵するものはないほどのみごとな橋」と記録したことから、「マルコポーロブリッジ」の別称もある橋です。約15年前にこの地を訪れましたが、今でもマルコポーロの言葉を彷彿させる橋でした。それより前の2001年10月に小泉純一郎首相がこの地を訪れ、現職の首相として初めて中国の国民の前で頭を下げるという歴史的な出来事がありました。この約1か月前の9月11日にアメリカで同時多発テロがおき、多くの人々が犠牲になった直後でした。

2016年5月、オバマ大統領が広島に訪問し、広島記念公園で献花したことは記憶に新しいところです。ちなみに、12月8日は太平洋戦争の開戦記念日ですが、アメリカにとっては真珠湾攻撃を受けた日、「リメンバー・パールハーバー」として戦争の合い言葉にもなりました。

被害者はそのことをずっと忘れません。逆に加害者側はその出来事を同じようには覚えていないことが多いことは否めません。いじめもそうです。三高生、掛高生には、相手を傷つける人でなく、相手を気遣うことができる人になって欲しいと強く思っています。